

熊本市の観光・レジャーに関するアンケート(2025年3月調査)

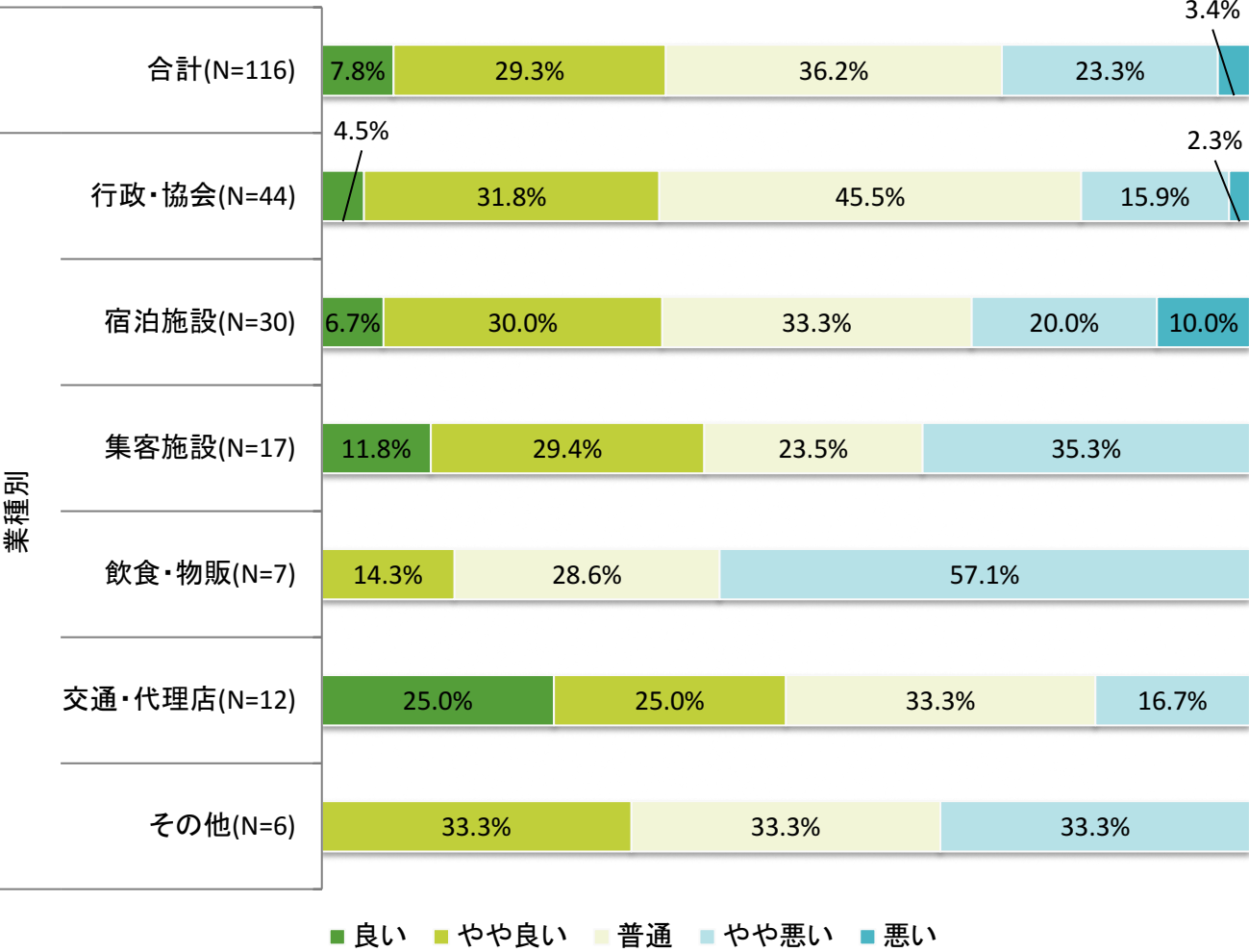
「熊本市の観光・レジャーに関するアンケート(2025年3月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:278、回収数:116、回収率:41.7%、回収期間:2025年3月3日～2025年3月13日)  
本アンケートは、市内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本市観光DI まとめ

	現状判断DI (1月～3月)	見通しDI (4月～6月)
合計(N=116)	53.7	58.4
行政・協会(N=44)	55.1	64.2
宿泊施設(N=30)	50.8	53.3
集客施設(N=17)	54.4	61.8
飲食・物販(N=7)	39.3	53.6
交通・代理店(N=12)	64.6	50.0
その他(N=6)	50.0	54.2

1～3月の熊本市の現状判断DIは53.7となり、前期(62.9)から9.2pt低下した。飲食・物販を除く5業種で景況判断の節目である50以上となった。  
前期からDIが低下しているものの、台湾を中心にインバウンド需要が好調であることを好況の要因とする声が散見され、引き続き景況感はやい。一方、閑散期に入ったこと、国内客の伸び悩みについて指摘するコメントも見られた。また、観光が大きく伸長した前年と比較すると、今年は低調であるという趣旨のコメントもあった。  
見通しDIは58.4となり、前回(52.2)から6.2pt上昇した。すべての業種でDIが50以上となった。  
現状判断DIと異なり、見通しDIは前期から上昇した。季節が春に移るなかで、現時点で国内・インバウンドの引き合いが好調であることを好況の要因として挙げるコメントが見られた。一方、物価高騰などの景気要因が懸念材料であるとの声もあった。

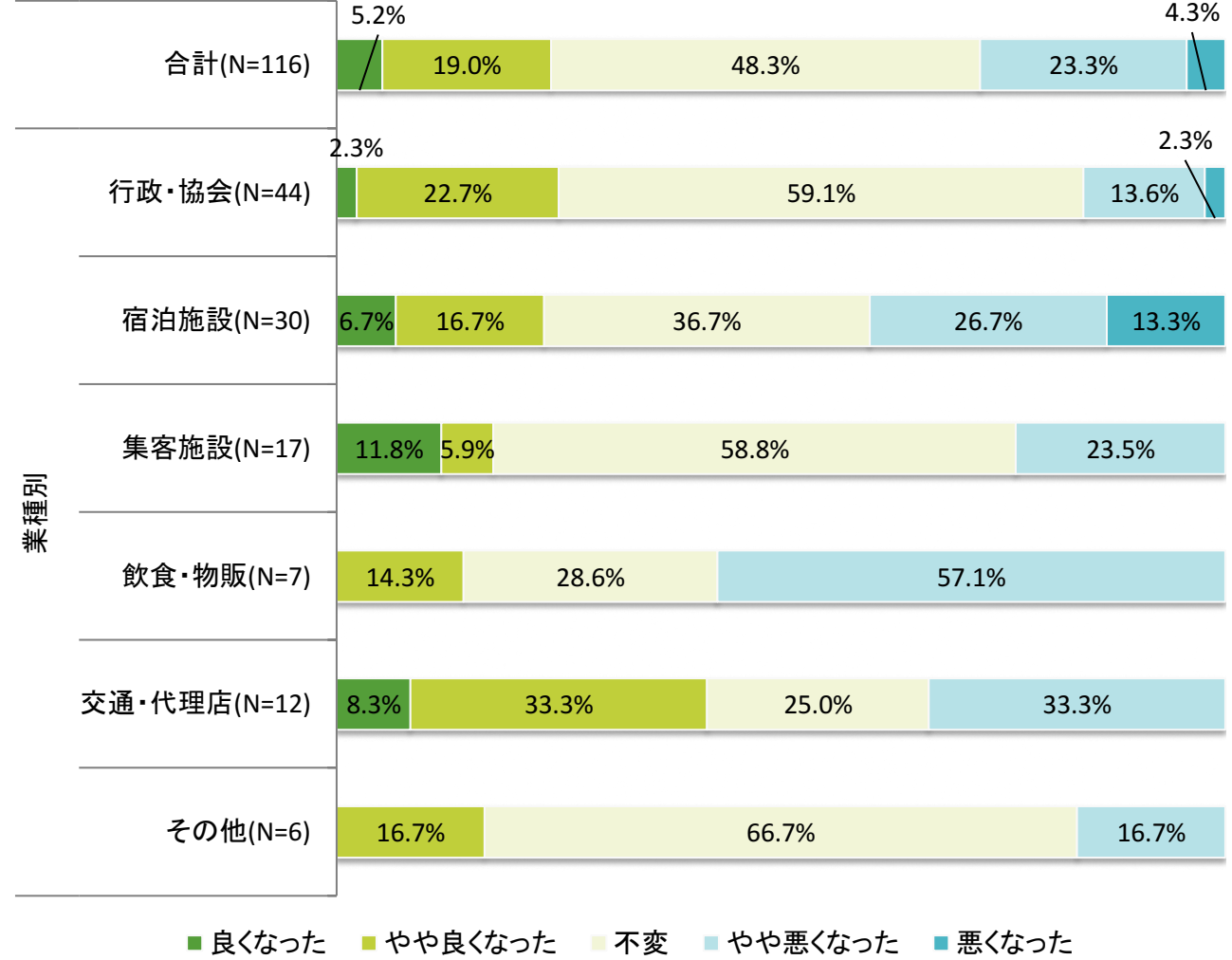
2. 1～3月期の動向、景況感



1～3月の景況感は全体では「良い」と「やや良い」の合計が37.1%、「悪い」と「やや悪い」の合計は26.7%となった。  
「良い」と「やや良い」の割合が回答の半数を占める業種は交通・代理店であった。

【コメントの抜粋】  
●良い  
高稼働・インバウンド増(宿泊施設)  
●やや良い  
海外からの個人客の増、熊本空港台湾・韓国線の就航由来ではないか？(行政・協会)  
中国(台湾を含む)と韓国の来園が増加しているため(その他)  
●普通  
TSMC特需を抜かしますと特に例年通りです(交通・代理店)  
コロナ禍前の状態に戻ってきているイメージ(行政・協会)  
●やや悪い  
昨年より利用者が減少。ただ昨年が良すぎた感はある(集客施設)  
旅行者の傾向は変わらず例年並かと思われませんが、物価上昇により良いとは思えない(宿泊施設)

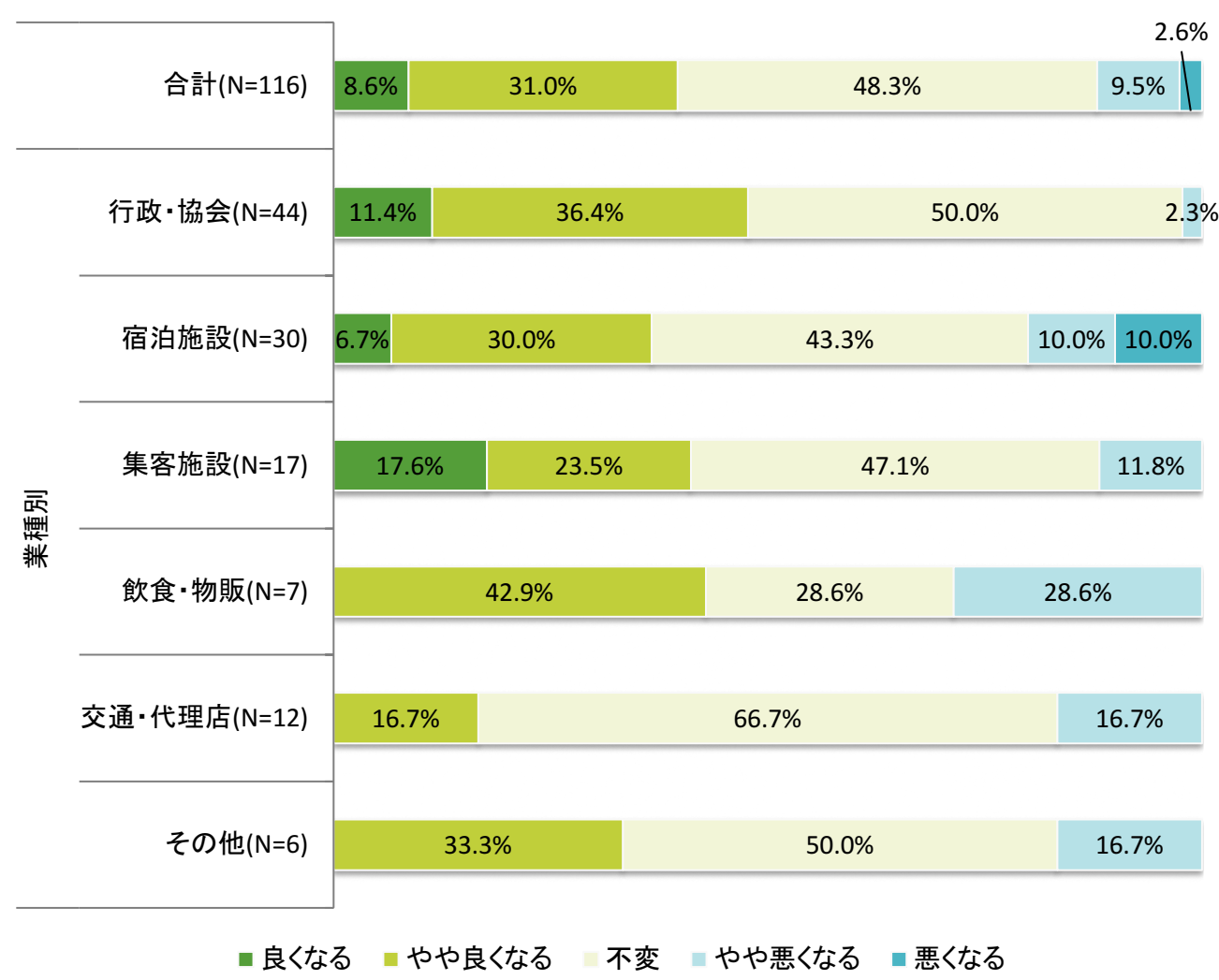
3. 2024年10～12月期に比べた1～3月の動向、景況感



2024年10～12月期に比べた1～3月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が24.2%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は27.6%となった。  
業種別にみると、全ての業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が半数を下回った。

【コメントの抜粋】  
●良くなった  
当町を含む近隣市町村にてイベントが隔週開催され、周遊できる期間があり、多くの観光客が訪れたため(行政・協会)  
●やや良くなった  
宿泊部門好調(宿泊施設)  
年末年始や春節は多くの観光客が来られている(行政・協会)  
●不変  
インバウンド客などいい面もあるが全体的な数字をみると同程度(行政・協会)  
閑散期に入っているので比較が難しいが、大幅な景気の良さは感じなかった。インバウンド効果は昨年よりこの期間は無かった(集客施設)  
●やや悪くなった  
2024年度より落ちている傾向があるかなと思います(飲食・物販)

4. 今後、6月までの業況の見通し



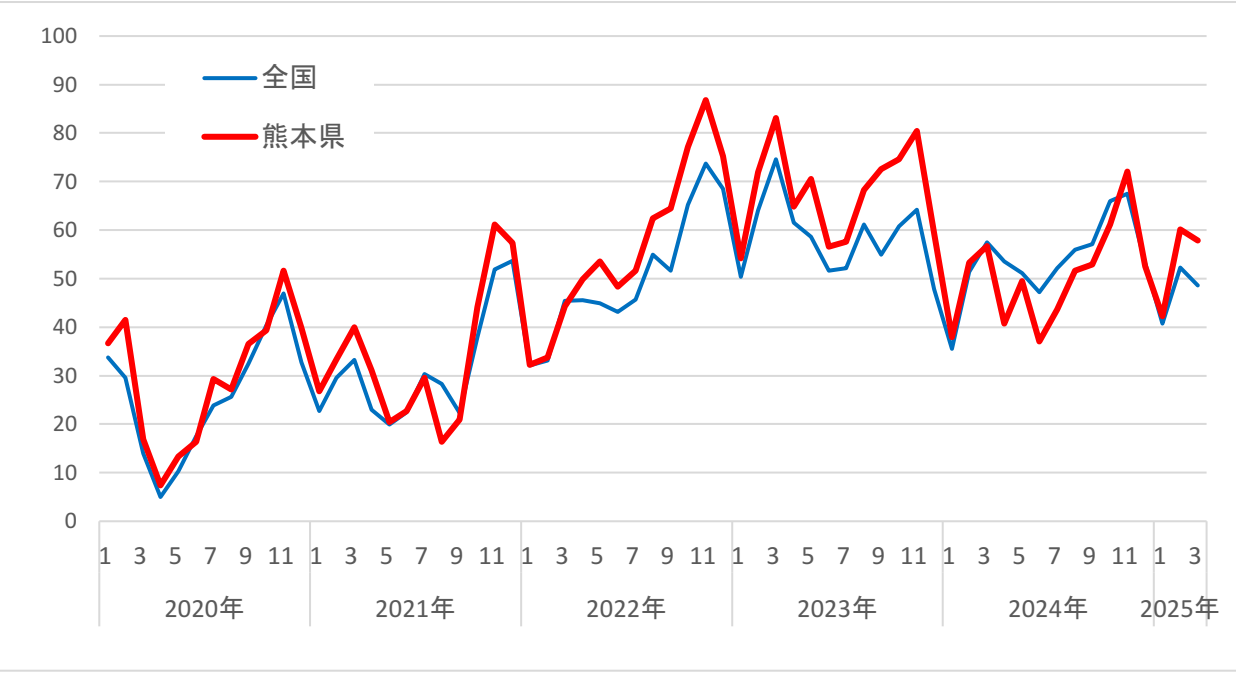
今後3月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は39.6%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は12.1%となった。  
業種別にみると、全ての業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が全体の半数を下回った。

【コメントの抜粋】

- 良くなる  
現時点で国内海外からの問い合わせが昨年よりも多いため（宿泊施設）
- やや良くなる  
国際線航路が増便されており、インバウンドに期待が持てるから（行政・協会）  
観光のお客様の増加（飲食・物販）  
台湾を中心に、インバウンドの盛り上がりを感じるため（行政・協会）
- 不変  
景気の動向がみえない 物価高が影響して人の動きがどうなるか不明（集客施設）  
現在の来季の予約数は前年比上昇しているが、単価があまりよくない（飲食・物販）
- やや悪くなる  
物価高騰による購買意欲の低下懸念（飲食・物販）

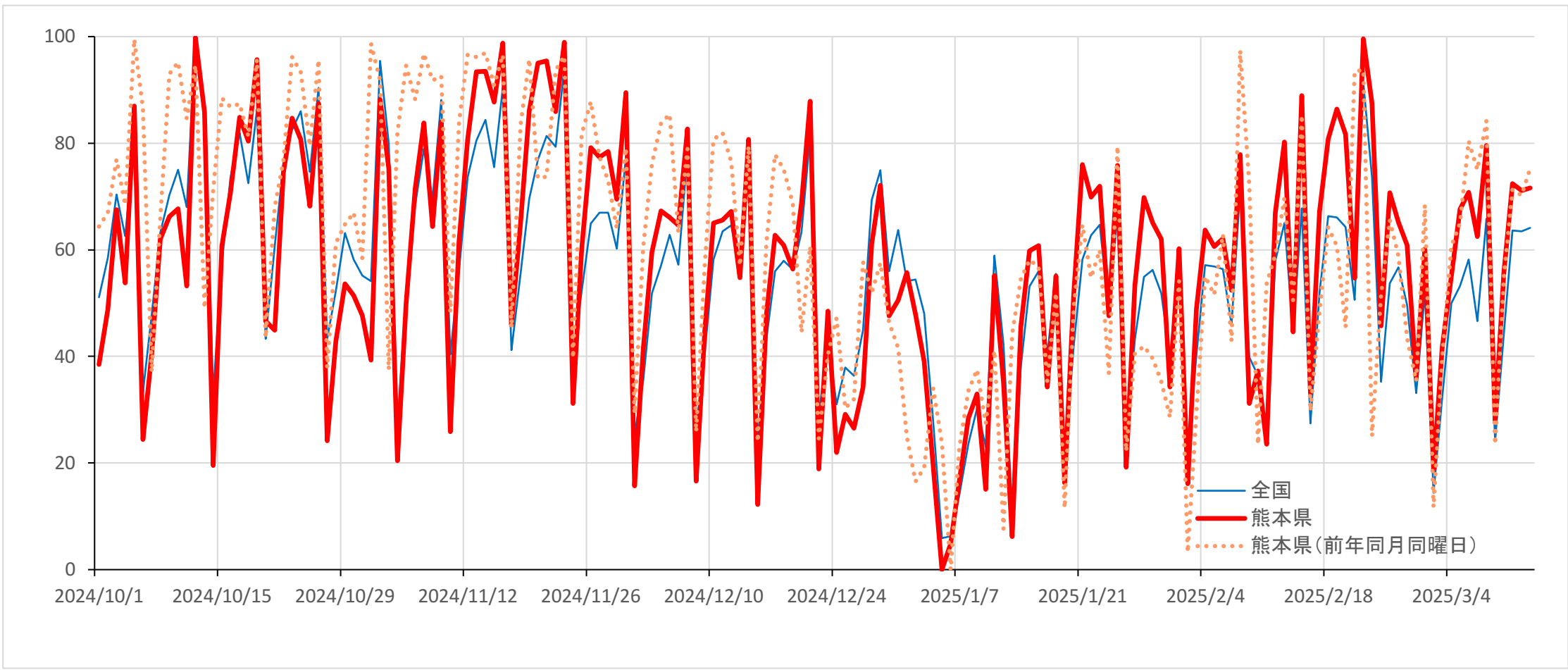
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別（2020年1月～2025年3月）



2025年1月における熊本県の宿泊稼働指数は42.3（前年同月差+4.3pt）、2月は60.1（同+6.8pt）、3月は57.9（同+1.2pt）となった。（3月は13日までの暫定値）  
2023年10月から2024年12月にかけて15か月連続で前年同月の指数を下回っていたが、2025年1月から3月は3か月連続で前年同月を上回っている。また、全国の同時期同値と比較しても上回って推移している。  
2024年は、工事需要の反動や旅行支援施策の縮小などを要因として同指数は前年（2023年）から低下がみられた。しかし、2025年に入ってからには上昇に転じており、宿泊の動向に底打ち感が見られる。  
地域別にみると、熊本市、菊池市、益城町、合志市など県北、県央部で今期の宿泊稼働指数が県全体の指数を上回る高水準で推移している。同地域のDI調査におけるコメントを見ると、インバウンド需要を起因とする好況を指摘する声が散見される。

②日次別（2024年10月1日～2025年3月13日）



熊本県の宿泊稼働指数を日次別（原数値）でみると、土日祝日の指数が前年と同程度の水準で推移していることに加え、平日において前年を上回る傾向がみられ、これが期間全体で見たときに指数が前年を上回る要因となっている。特に2月の後半にかけて前年を大きく上回る水準で推移しており、今期で最も指数が高かったのは、2月22日（土）であった。  
指数の前年同期差がプラスの日は1月に20日、2月に21日あり、上述の通り、指数の低下に底打ち感がみられる。  
全国と比較すると、今期は熊本県が全国を上回る日が多く、特に2月は24日間で全国を上回った。宿泊稼働指数に上昇傾向がある中、全国と比較しても熊本県の指数の回復は顕著に進行している。

用語解説

※DI(ディフィージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100 に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020 年 4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left( \frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) \times 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。